

平成29年7月7日

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

〒060-0061

札幌市中央区南1条西11丁目

TS札幌ビル

公認会計士・税理士 酒井純事務所内

白楊ヶ丘札幌

保護者との信頼関係を築くには



札幌支部 支部長

黒田 信彦

(第七三期・昭和四十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から同窓会の活動に對しましては一方ならぬご支援を賜り感謝申し上げます。本年度も皆様方のお陰で総会・懇親会を開催できる運びになりましたことに対して厚くお礼申し上げます。今回の講演は当支部の副支部長で弁護士の藤田美津夫氏(七二期)に依頼しました。私たちは普段は弁護士活動を身近に知ることはありませんのでこの機会に様々なお話を伺えることを楽しみにしています。

さて、学校では昨今、保護者との関係が難しくなっております。以前は「先生にお任せしています」、「悪いのはうちの子ですから」、「悪いことをした時は怒ってください」などと言う保護者が多く、保護者との間に暗黙の信頼感があり教師はその上に立って安心して仕事ができました。それが一九九〇年代後半頃から保護者が遠慮なくものを言うようになり、「先生は××してください」、「うちの子だけが悪いのではない」、「先生は信頼できない」など担任に對しての要求や教育方針について堂々と主張するようになってきました。特に私学では「高い授業料を払っているのだから、志望校に合格させてほしい」、「教員の力量に差があり不公平だ」などの要求が多くなっているようです。さらに、我が子の言い分だけをうのみにして一方的に被害者意識を持つ保護者、些細なこ

とでもいじめだと言いたてる保護者、成績にクレームをつけてくる保護者など様々であります。この原因は定かではありませんが、保護者の学歴が上がってきたことや自分の価値観を主張する風潮になってきたこと、少子化による子どもへの期待の大きさなどが考えられます。したがって、担任は保護者との間で信頼関係を最初から築き上げなければならぬ時代になったといえます。

そのために、コミュニケーション能力と危機管理意識の双方を兼ね備えていることが必要になりました。教員はどちらかと言えば人に話すことには長けていますが話を聴くことは苦手であったりします。保護者との信頼関係を構築するには、まずは話をしっかりと聴く、懇談時間を十分に確保し笑顔で帰れる懇談を心がける、トラブルや相談には直ちに対応する、日頃からこまめに保護者と連絡を取るなど留意しなければならぬことは多くあります。こうしたことを疎かにすれば、些細なことであっても大きな問題に発展し、保護者がクレーム化する場合も多く、後始末に膨大なエネルギーを要することになります。危機管理の観点では、何か事が起こったときやクラスの様子が普段と違った場合などは、①最悪を想定して対処すること、②真剣に対応すること、③素早く事の処理に当たること、④誠意を持って対応すること、⑤組織で動くこと(危機管理のさ・し・す・せ・そ)をいつも職員に話しておりました。教師は教えるという営み



夕暮れの五稜郭タワー

を通して、生徒が社会に出ていくための準備を行って、人生のゴールが学校にあるわけではありません。教師は子ども、保護者、同僚、管理職と常に接し続ける仕事であり、人間関係を楽しいめない人や関わりを持ちたくない人は教師には向いていないと思います。教師は教科指導のプロである前に人間関係のプロでなければならず、教育内容や教育方法は時代とともに変わっていきませんが、人とのつながりはいつの時代でも大切にしなければならぬと思います。

函館中部高校のさらなる発展を願って



白楊ヶ丘同窓会会長
石井直樹
(第六三期・昭和三十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部
定期総会・懇親会のご盛会
をお喜び申し上げます。
珍しく雪の少なかった今
冬の函館でしたが、函館中
部高校においては、三月一
日には卒業式を無事に終え、
この四月十日には、新入生
を迎えたところであり、一
年の経過は早いものだとつ
くづく感じております。

昨年九月二十四日の函館
における定期総会において
会長に再任され、会長とし
て三期目を迎えるところで
すが、諸々の事情からの同
窓会館の売却、そして一昨
年の創立百二十周年式典な
どの挙行と、役員の皆様は
もとより会員の皆様のご支
援とご協力により大きな課
題をクリアすることができ

ました。歴史と伝統を誇る
函館中部高校の同窓会の運
営にあたっては、極度の重
圧と適度な充実感に、現
在は一息ついたというか、
ほっとした気持ちです。
昨年、道民待望の北海道
新幹線が開業し、国内はも
とより多くの外国人が函館
を訪れ、魅力のある都市ナ
ンバーワンに彩を添えてお
ります。ひと頃の台湾、韓
国に加えて中国、タイ、マ
レーシアそしてシンガポー
ルと、より国際的になって
きております。
五月に仙台で大学経営に
携わっている函館中部高校
の同窓生と懇談をしました
が、北海道新幹線の開業に
より、時間距離では札幌よ
りも近くなったということ
で、生徒数が減少傾向にあ
る中、函館からの進学が視
野に入ってきたとのこと
であります。そう言われ
てみると、函館市内を走る
バスなどの車体の広告にも

仙台の大学が見られるよ
うになったように感じま
す。二〇三〇年には札幌ま
で新幹線が延伸される予定
です。その時には、今より
も生徒数の減少が顕著とな
り、大学側からみると学生
の確保が厳しくなります
が、生徒の方からみると北
海道に東北と選択肢が広が
るものと思われれます。
いずれにいたしましても、
同窓生の立場といたしまし
ては、道内有数の進学校の
一つである函館中部高校の
伝統を継続し、さらなる発
展を願い、友人、知人そし
て家族に函館中部高校の素
晴らしさを伝承していただ
ければと思います。現在の
函館市の人口は、最も多かつ
た昭和五十九年の三十二万
人台と比べると相当数減少
して、二十六万三千人台に
なっており、全国的に減少
傾向にあるとはいえ、函館
の現状は大変なものと思わ
れます。高校を卒業し、進

学や就職で地元を離れるこ
とは一般的な傾向であり、
とりわけ男子生徒に多くみ
られる現象ではありますが、
一度、函館を離れると地元
に戻ってくるケースは少な
いものと思われれます。親が
地元において企業を経営さ
れ、高齢等になられた場合
その業を継ぐということ
で戻られることとか、家族の
介護のためなどで戻って
くるケースはありますが、社
会動態での減や自然減が大
きく、必然的に人口減少が
続くことになるものと思わ
れます。
ご承知の通り、函館は陸、
海、空と交通の要衝であり、
関東、東北などの国内はも
とより、海外からの観光客
いわゆる交流人口をいかに
増やすことができるかが一
つの大きなテーマです。そ
のような意味では、北海道
新幹線の開業や格安航空の
就航などはタイムリーなこ
とで、加えて豪華客船の寄

港回数が増えることが望ま

れるところがあります。こ

のため、J R函館駅の裏側

に客船埠頭を造成し、中心

市街地により近いところに

接岸し、異国情緒の漂う西

部地域を散策していただ

き、市街地に賑わいをもた

らすとともに、寄港時間の

有効活用につながるものと

期待されます。これら交流

人口の増加が、地域経済の

活性化に大きく寄与してい

るところであります。

いずれにしても、同窓生

の皆様には、故郷函館の現

況にそれぞれのお立場で思

いをはせ、函館の素晴らし

さをPRしていただくこと

もに函館中部高校を巣立つ

たことに誇りをもっていた

だければと思います。

終わりになりますが、黒

田支部長をはじめ皆様のご

健勝ご活躍と札幌支部の一層

のご発展を祈念いたします。

東京支部だより



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

白川 正 広

(第七六期 昭和四十九年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

の皆様には、お変わりなく

お過ごしのこととお喜び申

し上げます。また、日頃よ

り、当東京支部へのご支援

に厚くお礼申しあげます。

昨秋の東京支部の親睦大
会をもって、前任の六七期・

安田康次氏から支部長を交

代しました、七六期の白川

正広と申します。支部規約

で任期は三年となっております

ます。引き続きよろしくお

願いいたします。

さて、函館中部高校の卒
業生が函館を離れ、大学進

学等で全国に移住すると

いつても、まとまった人数

の同窓生が生活しているの

は、北海道内では札幌、ま

た、道外では関東地方だと

思います。その点で札幌支

部と東京支部は情報交換を

密に行うことによつて、双

方の発展が期待できるもの

と考えております。

と申しますのも、たいへ

ん多くの同窓の皆さんが居

住しているはずの関東地方

ですが、東京支部の会員が

順調に増え、親睦大会が

年々、隆盛を極めていくか

と問われれば、必ずしも安

心してそれが見通せる状況

にないこと認識しております。

もちろん高齢の方から

五十歳台あたりの従来から

東京支部の行事に参加して

くださっている会員の皆さん

はたいへん活気があり、

私たち幹事会のメンバーに

積極的にご意見を頂戴して

おります。最も人数の多い

会員に支部の会報を発送し

ております。この層が当支

部の活動を支えてきたと

言つても過言ではありませ

ん。背景には戦後のベビー

ブームの層が含まれてお

り、一学年で十数クラスの

教室数があつた年代の皆さん

が何期にもわたりおられ

ます。

ただ、懸念するのは、そ

れよりも若い世代です。こ

れまでも、一般論として、

三十歳台、四十歳台の皆さん

は、お仕事の上でも多忙

であり、また、子育てもた

いへんな時期であり、同窓

会に関わる時間が取れない

ということ、同窓会の存

在はわかつていても親睦大

会等に参加する方は限られ

ています。これは原因が

はつきりしていますので、

仕事にも慣れ、お子様も大

学に進学しさらには就職し

て一人立ちする頃、一応の

目安として五十歳台になれ

同窓会に足を運んでくれる

ようになる、と楽観できた

ものです。

これまではそうでした

が、憂慮すべきことが二点

あります。一つは高校でま

とめていただいている卒業

生名簿等にも住所や電話番

号を記載しない方々の存在

です。個人情報保護法の流

れなのか、プライバシーを

固く守りたいというお考え

の方が一定の割合で存在し

ます。昨年の中部高校の名

簿でも、住所が空白という

方が二割程度おられます。

住所を掲載しないというの

は典型的ですが同様の発想

は住所を開示してくれてい

る層にも拡散しているもの

と考えています。このよう

な方はそもそもご本人の意

思によらない連絡を断つて

いるので従来の発想で、卒

業生は全員同窓会に加入す

るもの、というだけでは寄

りついてくれないと考えて

もう一つの問題は、携帯電話やパソコンの連絡ツールが飛躍的に発展し、LINEやFacebook等のSNSを通じて、気のあつた仲間は常時コンタクトをとれる環境に若い皆さんは馴れ親しんでいることです。少人数の仲間同士では強くまとまりますが、それで当座の社会的な関係構築が完結してしまつていすので、あえて、その枠を出て、外との関係をつくる必要性を感じない層が形成されています。

日本社会全体はなかなか歯止めのかからない少子化の問題を抱えておりますが、函館中部高校の卒業生は今年も二百七十二名とのことですので卒業生の人数自体が激減することを心配しなくてもよいことは、校名が変わつた函館東高校の「青雲同窓会」などの心配ごとと無縁にいられるだけ幸いです。

東京支部の役員は最近になって、上記のような問題意識を持っています。一定の同窓生の数が供給されている以上、同窓会は放つておいても順調に組織が維持継続されるはず、という状況に黄信号がともつたと認識しています。しかし、問題がわかつている以上、対策の打ち手があるはずで、画期的な新しい活動を起こしたいわけではありませんが、むしろ、昨年までやれていた活動を次の世代まで継続していくためには、これまでと同じことを繰り返しているだけではダメではないかという問題です。

そのために二つの視点で取り組みもうと考えております。数の問題と質の課題です。

関東地方に在住している同窓生の数は漠然とわかつていながら、特に、若い層の皆さんをどうやって同窓会と結びつけていくか。これまででは部活のつながりや大学のサークルの先輩後輩を通じて、いわば、自然発生的に下の年代の名簿が充実していったようです。これはこれで先輩を信頼して対面でお誘いするので最も堅い方法であり今後とも中心的な方法になるものと思えます。今、それだけに頼っているわけにはいかないのでも、名簿に住所の記載はなくても、いつでも連絡がとれるような予備的な関係を広く大きく作っていくべきだと考え、Facebookをてはじめに、紙の名簿をゴールとしない、関東在住者にこだわらない、そのような関係を広げていきたいと考えており、支部の若手役員が中心になり積極的に取り組んでいます。

質の観点では決定打があるわけではありませんが、本年度から、開始した取り組みとして、①新卒者歓迎会、②五十歳以下の期が同期会を開催すれば支部から補助金を出す、③親睦大会幹事期のリレーを絶やさない、この三点です。③を補足しますと、東京支部では五十歳になった期、今年でいえば八七期が親睦大会の企画運営の中心になります。これは十年前から実施していますが、その期が次の期にしっかりとバトンタッチすること。実は昨年、このリレーが途絶えたために、大会出席者が減少し支部の財政にも多少の影響がありました。

また、ここまでは従来型の同窓会の発想で思いつく方策です。今期は八〇期より若手の皆さんに、将来の同窓会・東京支部の活動をどういうものにしていくべきか議論を交わしてもらうことも予定しています。たとえば、紙媒体の会報は十年後にも必要なものなのか、といった観点です。

東京支部は現時点で三千名を超える会員に会報を配布しております。規模が大ききだけに将来想定される問題点も他の支部よりも顕著に現れてくる面もありましょうし、また、札幌支部をはじめ各支部が直面している課題を移行に移せる側面も持っています。そのような観点から、これまで以上に本部及び各支部との情報交換を図っていきたくと考えております。共に発展していくことを期待しておりますとともに今後ともよろしくお願い申し上げます。

学校の近況について



北海道函館中部高等学校長
中島 悟

一 はじめに

黒田信彦支部長様をはじめ、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様には、日頃より本校への温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。また、この度の白楊ヶ丘同窓会札幌支部第三十七回定期総会・懇談会のご盛会を心からお慶び申し上げます。昨年は札幌支部の懇談会に出席させて頂きましたが、今年は白楊祭の開催が一週間早まり、日程が重なってしまいました。そのため折角のご案内にも出席することができなくなり、紙面をお借りしてお詫びを申し上げます。

北海道新幹線が開通してから一年余りが過ぎまし

た。本州からの利便性が向上したこともあり、昨年函館を訪れた観光客は推計で五百六十万人を越え、過去最高を記録したと報道されています。今年のゴールデンウィークは五稜郭公園など桜の名所にたくさんのお客が押し寄せ、大変な賑わいをみせていました。

二 部活動の活躍

中部高校は文武両道の伝統を大切にしている学校ですが、今年四月の時点で生徒の部活動の加入率は八十七・二パーセント、進学校としては高い加入率と

なっています。生徒は日々の勉強に励む中、部活動にも全力で頑張っています。五月末に行われました高

体連函館支部の大会では、剣道部、弓道部、硬式テニス部、バドミントン部がそれぞれ男子団体優勝に輝き、女子バスケットボール部も支部大会四連覇を果たすなど目覚ましい活躍をみせてくれました。また、文化系では全道将棋選手権大会で、三年生の阿部奈緒さんが女子個人戦で見事全道優勝を果たし、全国大会への出場が決まりました。この他、高体連、高文連の支部予選を突破し、全道大会へ進出する部活動は六月一日現在、ハンドボール部、陸上競技部、卓球部、柔道部、水泳部、体操部及び放送局と、全部で十三の部局が全道大会へ駒を進めました。各部の全道大会での上位進出を願うと共に、これから大会を控えている野球

部、そして吹奏楽局や音楽部など文化系の部活動の活躍を期待しています。

三 進路状況

平成二十九年度の進学状況についてお知らせします。国公立大学合格者は現役九十一名（昨年度百十三名）・過年度二十八名・計百十九名、私立大学には現役合格者が延べ百六十二名・過年度二十四名・計百八十六名となりました。国公立大学の現役合格者は、卒業した生徒数が例年より二十名ほど少なかったこともあり、百名を超えることはできませんでした。それでも京都大学や一橋大学など国立難関校に合格者を出し、また、私立大学では、早稲田、慶應、明治、法政、立教など首都圏の大学にも多数合格しています。卒業生の努力と健闘を高く評価したいと思います。

一方で全体的に理系の進学実績が不振の年でした。医学部医学科は過年度生がよく健闘し、旭川医大

二名、札幌医大二名、東北医大一名と全体で五名の合格者を出しましたが、現役の合格者はゼロという厳しい結果となりました。平成二十年に医進類型が開設されて以来、毎年医学部への現役合格者を出してきましたが、残念ながらこの春に途切れてしまいました。現在、今年度の入試結果について分析しているところですが、教育課程の見直しを含め、これからの対応についてしっかり検討し、改善を図って参ります。

四 学校の近況

本年四月十日に新入生二百四十名を迎え、全校生徒七百十九名で平成二十九年度がスタートしました。今年の高校入試は、函館西高校の定員が四十名減った

影響もあり、函館中部高校の当初出願者は三百三十三名、倍率も一・四倍と近年では高い競争率となりました。

それだけに入学式でみせた新人生の表情は、緊張の中にも函館中部高校へ入学する喜びとこれから始まる高校生活への期待と希望に満ちた表情が大変印象的でした。

本校は進学指導だけではなく各教科、特色ある教育実践を行っています。とりわけ「中部の英語」と呼ばれているように本校の英語教育は全国的にも高く評価されています。英語科では、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、海外留学にも通用する英語力を目指しています。毎年多くの生徒が英国バンガー大学への語学研修に参加し、実際に海外の大学へ進学する生徒もいます。昨年三月に財団法人英語教育協議会（ELEEC）の

最高賞、文部科学大臣賞を受賞したことで、大きな影響を呼びました。この一年間に全国各地から計十一の

視察訪問があり、「中部の英語」の関心の高さを改めて感じました。今年度は新たに北海道教育委員会から高等学校英語力向上事業の指定を受け、「中部の英語」の教育実践を全道に発信する機会が与えられました。

二〇二〇年度には、大学入試センター試験に代わる「大学入学共通テスト（仮称）」が導入され、英語は民間の検定試験により「聞く・話す・読む・書く」の四技能が評価されることになりました。本校英語科で積み重ねてきた教育実践は新テストにおいても十分通用するものと自信を深めています。グローバル化の進展する今日、国際社会で活躍できる人材の育成は本校の重要な使命であり、これからも英語教育の充実に努め

て参ります。

五 学校経営

少子化が進む中、道内の公立高校は再編統合や間口減が急速なテンポで進行しています。函館市の人口は平成十六年の合併当初三十万人を越えていましたが、現在の人口は二十六万人、ここ

十年余りで四万人が減少しました。人口減の影響により函館市内におきましても、平成二十九年度に函館西高校が一学年四学級から三学級に減り、平成三十年年度には市立函館高校が八学級から六学級への間口減が予定されています。更に、平成三十一年度には函館西と函



イベントで賑わう函館アリーナ

館稜北が統合した新設校が開校します。これからの三年間で函館市内の公立高校の状況は大きく変化するものと思います。こうした中、各学校にはこれまで以上に特色ある教育活動の実践と、教育内容の質的向上が求められています。

函館中部高校は、歴史と伝統を誇る道南の進学校としてその地位を確固たるものにしていかなければなりません。その実現に向けて、学校経営方針の第一に「生徒の将来ビジョンを育み、進路を実現する確かな学力を育成すること」を掲げました。中部高校へ入学してくる生徒のほぼ百パーセントが進学希望であり、いずれも中学校の成績はトップレベルの生徒ばかりです。こうした優秀な生徒を函館中部高校の三年間でしっかり育て、子どもたちの進路実現を果たしていくことが、地域や保護者の皆様か

ら期待され、信頼される学校に繋がるものと考えています。

学力の向上に向けては、全学年一斉の朝学習、月一回の土曜講習、夏期・冬の講習をはじめ、三年生では各教科が課外講習を実施しています。また、キャリア教育として、進路講演会、卒業生による合格体験発表、医学セミナーや医療体験、大学の先生による出前講義の実施、また、秋には資料参加を含め八十校を超える大学が参加する大学進学個別相談会を開催しています。これらの取り組みは、私学にも決してひけを取らないものと自負しています。現在本校で行っている様々な特色ある取り組みを更に工夫・改善し、生徒一人一人の進路実現を図って参りたいと考えています。

六 おわりに

本校は、昨年から道高野

連函館支部の事務局を受け持ち、校長も支部長として春・夏・秋の高校野球函館支部大会の運営に携わっています。ところで、函中野球部の歴史をたどりますと、創立が明治三十二年、今年で創部百十八年になります。野球部の輝かしい活躍は「函中野球部百年史」に詳しく掲載されていますが、過去二回、全国大会へ出場した実績があります。初出場は大正十年、二回目は昭和二十一年の第二十八回全国大会です。以来、幾

多にわたる全道大会での活躍がありました。函中野球部が三回目の全国大会出場を果たし、いつか甲子園のグラウンドに立つ日が来ることを同窓生の皆様とともに期待したいと思います。結びになりますが、同窓生の皆様にはこれからも本校へのご支援を賜りますようお願い申し上げますと、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念申し上げます。近況報告といたします。

旅行記

68期3年1組 クラス会

荒川 伸夫

(第六八期 昭和四十一年卒)

先シーズンの特に十二月の大雪には苦勞させられました。十二月のある日曜日、東京への出張のために

新千歳空港へ行ったところ、前日からの大雪のため飛行機が発着できない状況が続いており、当日もいつ飛び

立つかわからない状態でした。搭乗カウンターにはラッシュアワー並みの大勢の人たちが待っています。急遽、JRの列車に切り替え、南千歳駅からスーパー北斗で新函館北斗駅へ向うことにしました。三時間余り、ぎゅうぎゅう詰め列車の中です。やっとなおもいで、新函館北斗駅に到着。ここからは北海道新幹線で東京へ向かうのですが、座席指定券がとれず、立ち席券なるものでデッキにとりあえず乗ることができました。出発後程なくして上磯付近から函館湾越しに函館山を遠望。札幌までの延伸後は、函館は単なる通過地域されてしまふのかと余計な心配をしながら四時間、デッキではカバンを椅子代わりに東京駅にやっとな到着。午後七時になっており、南千歳駅から約八時間の思いがけない旅となりました。

そこで思い出されたのが、北海道新幹線開通前に東京から東北新幹線を使って函館に行った時のことです。中部高校卒業時の三年一組のクラス会に出席するためです。平成二十五年度の白楊ヶ丘同窓会東京支部の親睦会が十月十二日にあり、それに出席後、翌日には函館でのクラス会が予定されています。なかなか東北新幹線に乗る機会がないのでちょうどよいチャンスと思い、東京・新青森間を利用してみました。乗車時間わずか三時間で新青森駅に着いてしまうという信じられない短さです。昭和四十一年に函館中部高校卒業後、東京の大学に進学しましたが、当時函館から東京へ行くのには青函連絡船で四時間、SLと言えば格好は良いですが蒸気機関車に引かれた急行列車で青森、上野間を十二時間かかったものです。顔はすすだらけ、いつ乗っても混み合っている車

内の通路に新聞紙を敷いてなんとか横になれるそのような有様です。

現在の東京・新青森間は快適な三時間でしたが、学生時代のやっとなの思いで青森に着いた、というように感慨には浸れないくらい短く物足りない時間でした。

飛行機から切り替えての新函館北斗駅から東京駅までのデッキでの四時間は短くもありましたが、学生時代の煤けながら上京したことを思い起こさせてくれた貴重な体験でした。

さて、やっとな函館に着き、クラス会会場の湯の川「啄木亭」へ。昭和四十一年三月卒業時五十名（男子三十名、女子二十名）のうち、この時点では函館在住十八



開業1年の北海道新幹線

名、道内九名、道外十二名、住所不明二名、逝去八名。今回の参加は二十五名とちょうど半数が出席しました。道外からは全員首都圏在住ですが七名が遠路参加しています。今回は函館在住の笠原浩平君、鈴木芳彦君、高橋勉君たちの設営により素晴らしい会になりました。三年時担任の上野茂樹先生にも札幌からわざわざご参加いただきました。

まずは久々の湯の川温泉に浸りリラクセスしたあと、笠原君の司会で開会。一人



函館中部高校屋上にて

ずつ自己紹介、現状報告が続きました。高校時代の原型をとどめていない者もあり、懐かしさもひとしおです。二次会、三次会と夜のふけるのも忘れ旧交を温めました。(はしゃぎすぎて他の部屋からクレームまで入りましたが)

翌日は函館中部高校見学です。教頭先生の案内により校舎内を視察しました。英語教室では学習用の機器が設備され、その上現役生徒に流暢な英語で挨拶され、皆あつげにとられてしまいました。「俺たちの頃にこんな設備がなかったから英語が出来なかったんだ」と負け惜しみを言う者、皆納得です。最後に普段は入れない屋上に案内していただきました。そこから眺める函館山は卒業時と変わら

ず、愛する函館山です。校門の前で記念撮影。再開を約束し、名残り惜しくも中部高校を後にしました。



函館中部高校玄関前にて

六八期は団塊の世代の一期生になります。昨年

度の出生者ははじめて百万人を切ったとのマスコミ報道がありました。六八期、七〇期は毎年二百五十万人以上が生まれたベビーブーム世代です。超高齢化社会を先導する形で団塊の世代は生きていかなければなりません。函中時代の思いでを糧に元気に生きていきたいものです。

回想

「函中東京さつき会」のこと

藤田 美津夫

(第七期 昭和四十五年卒)

平成二十三年五月、東京在住の第七十二期生の企画により、「函中七十二期還暦記念東京同期会」が墨田区吾妻橋で開催された。首都圏には百名を超える同期

生がおり、渡部敏雄君(一組)、池田英一君(一組)、小林繁治君(二組)、佐野香苗さん(旧姓小岡、三組)、笹川浩史君(三組)、丹羽修君(九組)、村上誠

一君(九組)、村田秀樹君(九組)が幹事となつて、従来から数年おきに同期会が開催されていたとのことであるが、この年は、還暦記念ということで、函館や札幌にいる同期生にも働きかけがあり、参加者は五十七名に上った。また、当時の恩師である広川先生も駆けつけてくださり、数人の恩師がビデオを通して参加された。そして、全員が近況報告をし、「函中時代の思い出話も次々披露され、昔にタイムスリップしたような雰囲気となった。



還暦記念同期会 (平成23.5.21)



函中同期会 (平成25.5.18)

その後、ほぼ全員が近くのワインバーに移動して二次会が開催され、同期生のバンド演奏により、当時流行したフォークやグループサウンズの曲を斉唱して大いに盛り上がった。

この還暦記念同期会をきっかけとして、毎年五月の第三土曜日に「函中東京さつき会」と称して定例会を開催することとなり、千代田区九段の私学会館を

会場として、四十名前後の参加者を集め、毎回、盛大に開催されている。隅田川の屋形船を借り切って会場としたこともある。幹事にも異動があり、大森もと子さん(旧姓深瀬、一組)、田嶋和正君(六組)、古旗邦夫君(六組)、松本浩君(八組)、関谷一郎君(九組)も

幹事として加わって、活動に一層勢いがついてきた感がある。寄席、演劇、合唱など、毎回趣向を凝らした余興が周到に準備されており、代表幹事である渡部敏雄君をはじめとする幹事の皆さんの熱意と行動力には本当に頭の下がる思いである。

札幌から毎回出席することはなかなか難しいが、事情が許せば、ほかの用事も作って上京し、参加したいと思っている。

高校生活を振り返って

小林 令

(第一〇七期 平成十七年卒)

一 はじめに

平成十七年三月卒業、一〇七期の小林令といいます。毎年七月に行われる白楊ヶ丘同窓会札幌支部にこ

ず、純粹に私個人の思い出を述べますが、何か昔を懐かしむきっかけを一つでも感じてもらえると幸いです。

二 高校生活スタート

私は、函館市で生まれ、幼稚園の年長の途中で七飯町に引っ越しました。その後七飯小学校、七飯中学校を卒業し、中部高校に進学しました。高校には、JR七飯駅から函館駅までJRに乗り、函館駅からは、自転車、雨の日や冬の時期はバスや市電で通学していました。

この数年出席しておりましたところ、昨年平成二十八年の同窓会に出席した際、本原稿の執筆依頼を受けましたので、せっかくの機会ということもあり、お受けすることにしました。同窓会に出席するとわかるのですが、私からみると両親、祖父母の年代の方も多数出席されており、幅広い年代の方が同窓会を通じて交流されています。おそらく、本支部報を読まれる方も、同様に相当幅広い年代の方々にわたると思いますので、特段読者の年代を絞ることはせ

入学時、周囲は知らない人がほとんどですし、函館市内に通学するというのもあり、新しい環境に飛び込むことを楽しみに感じつつも、非常に緊張していま

した。入学当初は、「化学の教科書は春休み中に一通り読んだ」といった話や、「先生の同級生が、高校時代、右手で授業のノートをとり、左手で自習問題を解いていた」といったエピソードも耳にし、中部高校は本当にすごいところなんだなあ、と思った記憶があります。

もともと、クラスの中に気難しい人はいなく、一緒にいて楽しい人ばかりでした。最初に友達になった清大は、御世辞にも字がきれいとは言えず、自分で書いた字が読めなくて私に「何て書いてあるかわかる？」



変わる函館駅前

と聞いて来るほど、面白くて愛嬌がありました。清大は、放課後や休日、いつも私を遊びに誘ってくれました。こったんは、いつもパインあめを袋ごと持ってきており、皆からあめをねだられていました。お店でパインあめが陳列されているのを見ると、今でも思い出します。木本やシラ（白石）や板垣たちとは、よくボウリングに行き、アイス等をかけて遊んでいました。

入学してしばらくすると大沼公園で耐久レースが、夏休み前には学祭があり、クラスの皆との交流も増え打ち解けていく一方、徐々に緩みが生じてきます。私も、髪を染めたり、授業を中抜けして遊びに行ったりしたこともありました。玲央は、ある日突然金髪&坊主（確か眉毛も金に染めていたと思います。）にしてみました。クラス内では当然大うけですが、自由と責

任を標榜する中部高校でもさすがにそれは許容されなかったのか、担任の千賀慎一先生（化学）に呼び出され、指導を受けていました。期待、緊張、不安等、色々な感情を抱きつつ開始した中部高校生活は、特段大きな問題もなくスタートを切れたのではないかなと思っています。

三 部活動

サッカーがしたいなあと思ってしまう、サッカー部に入りなおしました。ハンド部の先輩方はやさしく送り出してくれ、サッカー部の方々も暖かく受け入れてくれました（多分）。

高校生活の中で大きな割合を占めたのは、部活動です。小中学校はサッカーをしていましたが、高校入学に際し、思い切ってハンドボール部に入部しました。当時、上下ともに真っ赤だった部活ジャージを来て練習する先輩方は、外見も華やかでかっこよく、そして良い意味でちょっと怖い存在で、憧れの対象でした。ただ、一年生の夏頃には、外で練習しているサッカー部の様子を目にし、やはり



変わらぬ母校・函館中部高校

今はもうなくなってしまうたお店もありませんが、部活の後等には、ラッキーパーエロ、青山商店、じゃん来る、シダックス、ソんパ等々に行き、サッカー部メンバーとは多くの時間を共有しました。まさひ（征宏）とは、シダックスの飲み放題を利用し朝から晩までお店に居たり、イトーヨーカドーで鬼ごっこをしたりして遊ん

だこともありました。

肝心の成績はというと、私たちの代では、特筆すべき結果を残すことはできませんでしたが、唯一、冬に行われるフットサル大会では全道大会に出場しました。札幌市内の雪輪というペンションに皆で宿泊したことを覚えています。

サッカー部メンバーのうち、のっち、やまけん、かちくんは札幌にいたのがわかっており、今でもたまに飲みに行っています。

四 二年・三年

一年生は初めての年だったので時間の経過は比較的緩やかでしたが、二年・三年はあつという間に過ぎてしまった印象があります。

二年生最大のイベントは、やはり修学旅行でしょう。私たちの学年は沖縄でした。当時は、定番の東京・大阪・京都あたりに行きたいと不満を述べていた

人も多々いましたが、いざ行ってみると、きれいな海や歴史ある土地に魅了されたからなのか、単純に旅行自体楽しかったからなのか、不満を言う人はあまりいかなかった気がします。将景と鈴木さんは、バス移動の際、皆が疲れて寝ている中、バスガイドさんと話を盛り上げようとしていたり、寝ている伊織の帽子を取替えて遊んだりと、本当に元気でした。三年生は、最後の学年ということもあり、異様に団結し、とにかく遊んでいた気がします。学祭から始まり、夏にはキャンプ、湯の川でバーベキューをしました。夜中まで遊んだあとは、りらちゃんの自宅にあるヨガ道場に行き、大人数で泊まらせてもらったこともありました。秋に行われる柔道大会で私たちのクラスは優勝したのですが、チアノーゼになってまで善戦した次鋒

石黒は、打上げに來ないでこっそり大学受験の勉強をしていたようです。このク

ラスのやさしさのおかげもあり、石黒は大学受験で

真つ先に進路を決めていました。おじーと鳴海は、周

囲がうらやむほど仲良く、いつも二人で一緒にいま

た。おじーとは今でもたまに会いますが、卒業後、お

じーは鳴海と全く連絡がとれないようです。鳴海、こ

の支部報を見ていたら、おじーに必ず一報入れるよう

に。

紙幅の関係上、到底全員の名前をあげることはできませんが、高校三年間を通じて、本当に楽しい人たちと一緒に時間を過ごすことができました。また、中部高校の先生方も、非常に親しみやすい先生ばかりで、決して意見を押し付けたり私たちが学生を下に見たりといった態度をとることがなく、内心は「子どもだなあ」

と思っていたのでしようけれど、対等な立場で接してくれていた気がします。

五 最後に

卒業後は、一年間自宅で大学受験のため浪人しまし

た。両親や家族親戚には、多大な負担と心配をかけた

はずです。その後、中央大

学法学部、北海道大学法科大学院を卒業し、司法試験

合格を経て、現在は、弁護士として札幌市内で勤務しています。

なんだか卒業文集に載せ

るような文章になってしま

い（もしかしたらそれ以下の稚拙な文章かもしれず）、

自身の考えの浅さや筆力のなさに落胆しましたが、ま

あこれはこれで純粋な私の思い出だと割り切り、あと

期限を徒過してしまっていることもあるので、これに

て脱稿とします。本原稿を執筆するにあたり、一度書き始めると筆がとまらず

色々なエピソードを思い出しました。当時つらいこともあったはずなのですが、とても楽しい思い出ばかりで、私の人生の中で、高校時代は相当な部分を占めているのだと思います。私は今年三十一歳になりますが、札幌支部に出席している中では、いつも最年少です。正直に申し上げる

と、出席している方々とは年代がだいぶ離れており、共通の話題が多いわけではありませんが、毎年、同窓会が終わったらすぐに翌年の予定をおさえています。同窓会や本支部報をもつて、たくさんの方が中部高校のつながりを再認識し、いつかどこかで集まるきっかけの一つにでもなっても

らえると幸甚です。なお、なるべく鮮明に私の思い出をお伝えしたかったので、本原稿において固有名詞をあげました。不快に思われた方がいましたら大変申し訳ありませんが、私は全て楽しかった思い出として記しましたので、勝手ながら、何卒了承いただければと思います。

平成28年度収支計算書

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

収入の部		
科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,449,643	
年会費	266,000	@ 2,000円 128名 @ 3,000円 1名 @ 5,000円 1名 現金払 @ 2,000円 1名
終身会費	90,000	@ 10,000円 2名 @ 15,000円 2名 @ 20,000円 2名
総会懇親会費	296,000	@ 5,000円 53名 @ 3,000円 10名 @ 1,000円 1名 現金払 @ 5,000円 1名
広告掲載料		
雑収入	30,000	総会祝儀・寄付金等
預金利息	70	郵便貯金
収入計	682,070	
収入合計	2,131,713	

支出の部		
科目	金額	摘要
総会懇親会費	264,000	会場関係費
講演会費	35,000	講師航空券代
印刷費	194,919	白楊ヶ丘札幌、総会通知、年会費払込票等印刷費
会員名簿作成費		
通信費	158,989	総会通知、支部報、発送費等
旅費交通費	73,000	本部・他支部総会参加旅費、その他交通費
会議費	54,120	役員・幹事会費
事務費	36,695	文具・消耗品費
振替手数料	17,370	郵便振替手数料
雑費	33,128	本部・他支部祝儀・その他雑支出
支出計	867,221	
次期繰越金	1,264,492	内訳財産目録のとおり
支出合計	2,131,713	

財産目録		
種類	金額	摘要
現金	39,907	
振替口座	18,160	
郵便貯金	1,206,425	
合計	1,264,492	

白楊ヶ丘同窓会札幌支部 第37回定期総会・懇親会

講演会

「司法制度改革と弁護士の業務」

講師 藤田美津夫 氏 (第72期)



(ご略歴) 昭和45年 函館中部高等学校卒業 (第72期)
昭和51年 北海道大学法学部卒業
昭和53年 弁護士登録 (札幌弁護士会所属)
昭和57年 藤田法律事務所開設
平成18年 藤田・荒木法律事務所と改称

(公職等) 平成16年4月～17年3月 札幌弁護士会会長
平成17年4月～18年3月 北海道弁護士会連合会理事長
平成19年4月～20年3月 日本弁護士連合会副会長
平成7年11月～9年3月 北海道顧問 (不正経理問題担当)
平成10年11月～17年8月 北海道労働委員会公益委員
平成12年4月～28年3月 札幌家庭裁判所家事調停委員
平成25年3月～ 北海道開発局コンプライアンス第三者委員
平成26年4月～ 下級裁判所裁判官指名諮問委員会札幌地域委員
平成26年6月～ 公益財団法人交通事故紛争処理センター評議員
平成28年5月～ 北海道住宅供給公社監事

(所属学会) 日本民事訴訟法学会、日本私法学会、日本労働法学会、日本賠償科学会

函館中部高等学校校歌

作詞 函館中部高等学校教諭

藤原直樹

作曲 函館中部高等学校教諭

酒井武雄

一、火柱のはためく峰も

年古りて緑の臥牛

宇賀の浦風の砂山

波よせてくずれ流るる

見よや物なべてうつろふ

窮みなし流転の相

二、北の国雪深けれど

その底には草は芽ぐめり

野山荒れ鳥潜めども

やがて来ん春の光に

万象の蘇る見よ

ここにあり不滅の生命

三、白楊のさやめく丘辺

秋深き梢仰げば

冴え渡る銀河の彼方

幽けくぞ星雲燃ゆる

胸に満つ久遠の思ひ

遙かなり真理の彼岸

四、限りなき流転の中に

生命あり不壊の学び舎

聞けや今窓の外遠く

新潮の入りくるひびき

よしさらば若人われら

踏まんなかな希望の門途

函館中学校校歌

作詞 第二高等学校教授

土井晩翠

作曲 東京音楽学校教授

岡野貞一

一、玄冥の北の一道

関門の岸に臨みて

青春の薫にしるく

基おく育英の場

二、集い寄る千余の子弟

人生の花の綻び

身を鍛へ心を練りて

向上の一路を辿る

三、宇賀の浦万頃の水

駒が岳千仞の山

微を積みて高きに至り

滴より空をもひたす

四、形ある無言の教

仰げ我が紅顔の子等

業成らば双の方の上

興国の運も負へかし

五、母校の名子弟の誉

花と香と常に伴ふ

任重く道の遠きを

嗚呼健児勉めざらめや

編集後記

桜の便りとともに、支部報の原稿依頼の便りもお届けしなればならず、編集担当として大変心苦しく思います。数年前、自ら執筆した経験からも、何かと慌ただしい春先に多くの方のご執筆をお引き受けいただけ、ことに感謝申し上げます。毎年、前年の総会の折にお願いさせていただいております。今年もこの支部報に目を向けた頃合いにお願いに参りたいと思います。

さて、編集担当も一汗かきます。この支部報中の写真の一部は六月の函館で撮影してきたものです。北海道新幹線が開業して一年、少しずつ新たな観光客を取り込む工夫が見られてきたように思います。総じて街並みや道路などが「キレイ」になつたような気がします。バスの運行も隅々まで行き届きはじめてと思えます。駅前、五稜郭電停前の変わりようも注目です。そういういった変化を地元の方々がどのように感じられているかがこれからの函館を決めると思えます。地元で自信をもつことが、成長の一步だと思っております。

(二〇四期中村大輔)